

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	阿倍野区
学 校 名	阪南小学校
学校長名	當麻 俊和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・阪南小学校では、第6学年 137名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語科・算数科の平均正答率は、ともに大阪市平均値、全国平均値より上回っている。
- 平均無解答率は、大阪市平均値、全国平均値より低く、全国平均値との比較では、国語科、算数科ともに1/3以下であった。児童がねばり強く問題に取り組んだことがうかがえるとともに、問題にねばり強く取り組む指導を積み重ねてきた成果であるといえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別の正答率をみると、「書くこと」以外の領域において大阪市平均値、全国平均値を上回っている。

〔算数〕領域別の正答率をみると、すべての領域において大阪市平均値、全国平均値を上回っている。

国語科、算数科のほとんどの領域で全国平均値を上回っているが、唯一国語科の「書くこと」の領域で、全国平均値から4.7ポイント、大阪市平均値からも2.2ポイント下回った。「書くこと」の領域の学習の取り組み内容について精査、改善していく必要がある。

質問紙調査より

○国語、算数の「授業の内容はよくわかる」という質問について90%以上の児童が肯定的に答え、全国平均値を上回っている。また、各教科ともに「学習がすき」という質問についても肯定的な回答が全国平均値を上回っており、学習に意欲的に取り組む姿勢が表れていることが分かる。

○国語の記述解答や算数の理由・求め方を問う解答について、「すべての問題で最後まで解答を書こうと努力した」とする回答が、ともに全国平均値を上回っている。問題に対して熟考し、ねばり強く取り組む姿勢が身についていると考える。

○「学級の友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」の質問に肯定的な回答をしている児童が、全国平均値を4.1ポイント下回っている。

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりに、まだ課題があることがうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

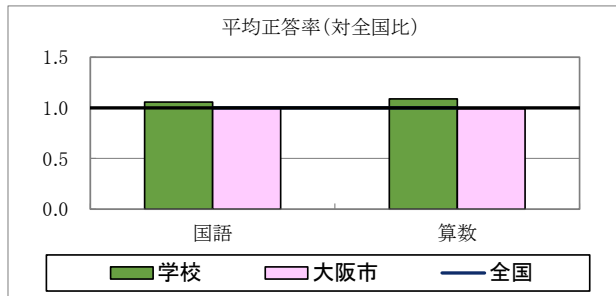
○「全国学力学習状況調査」の結果の分析から見えてきた成果と課題を全教職員で共有し、各学年の発達段階に応じて課題解決に向けての取り組みを検討し実践していく。

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、児童一人一人の思いを汲み取ることを基本にしながら、児童自らの考えをもとに協働して学びを深め、適切に表現する力を育むような授業づくりに取り組む。また、一人一台端末を有効活用し、タブレットドリルなどに取り組ませるなど、個に応じた学び・自主的主体的な学びに向け取り組みを一層進めていく。

【 全体の概要 】

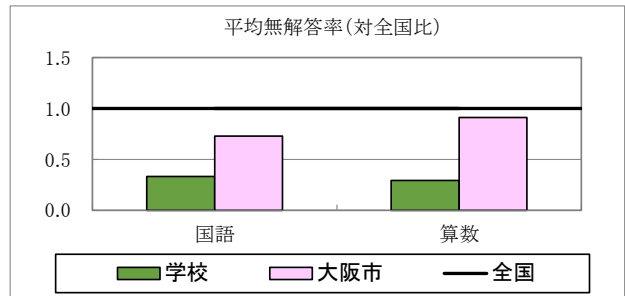
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	71	68
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.6	1.0
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



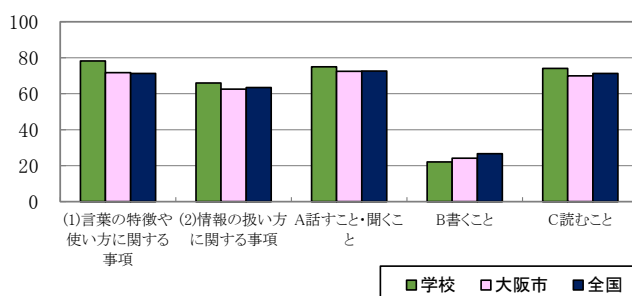
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	78.2	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	65.9	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に 関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	75.0	72.4	72.6
B 書くこと	1	22.0	24.2	26.7
C 読むこと	3	74.0	69.9	71.2

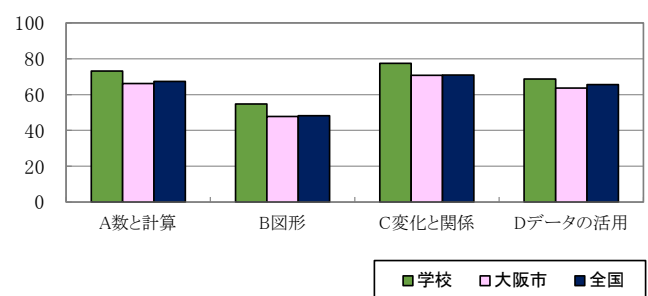
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	73.2	66.1	67.3
B 図形	4	54.7	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	77.5	70.8	70.9
D データの活用	3	68.7	63.6	65.5

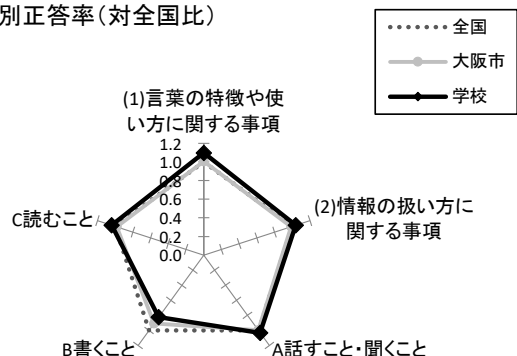
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



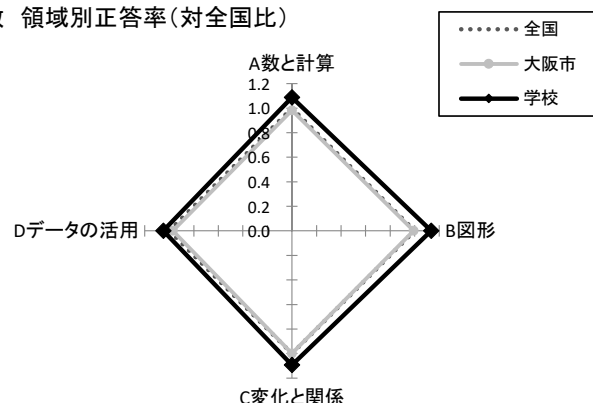
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

質問番号

質問事項

45

国語の授業の内容はよく分かる

60

今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

53

算数の授業の内容はよく分かる

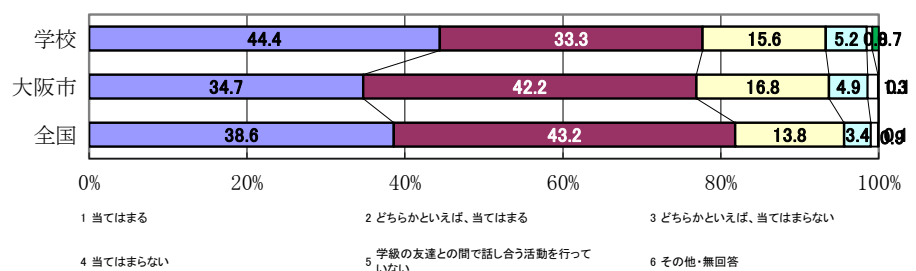
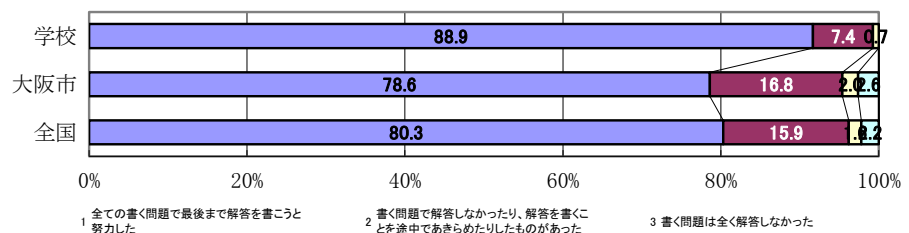
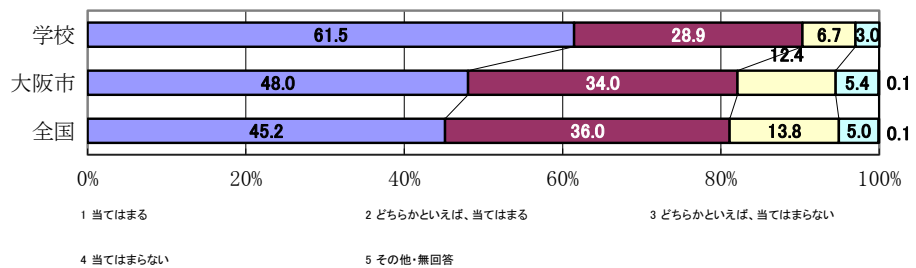
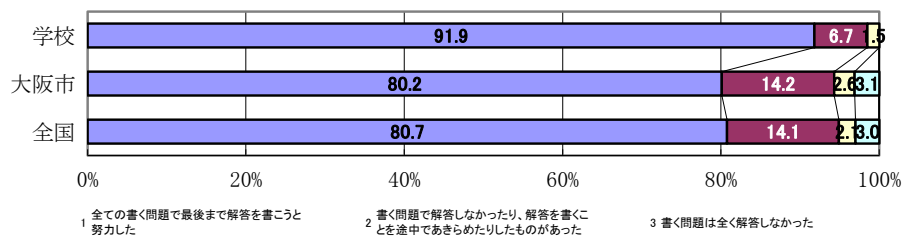
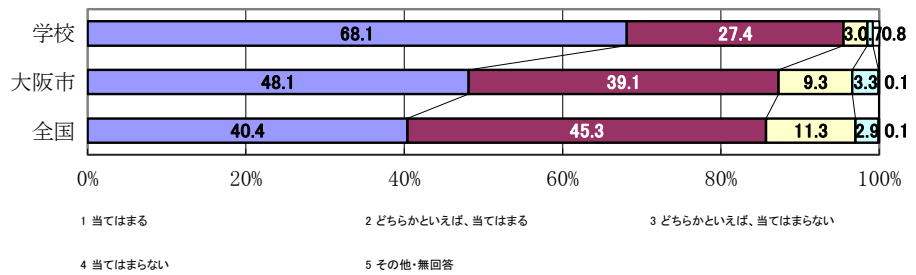
62

今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

1 2 3 4 5 6 7 8

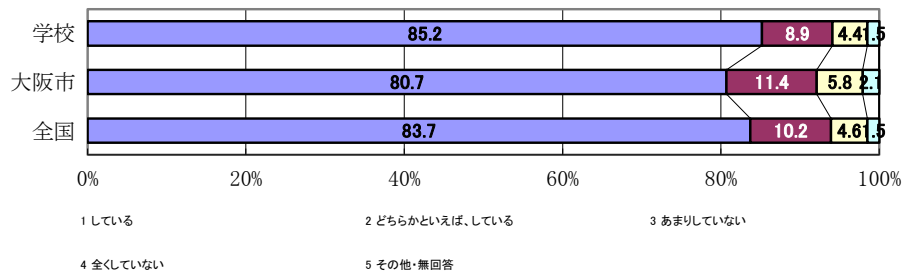


児童質問紙より

質問番号
質問事項

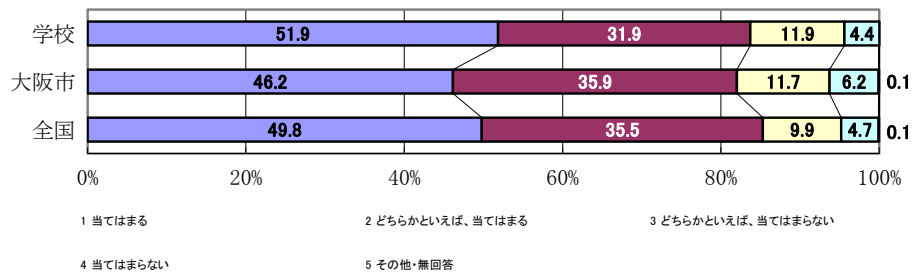
1

朝食を毎日食べている



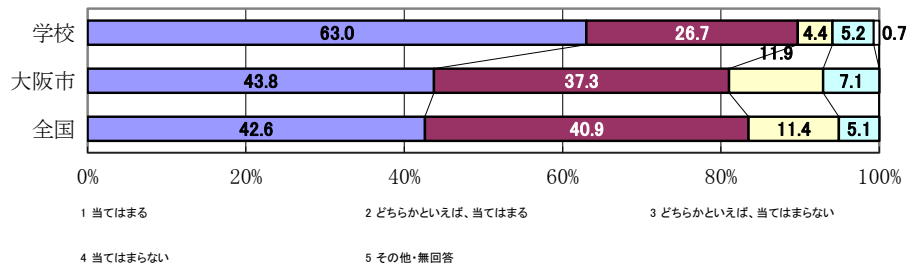
12

学校に行くのは楽しいと思う



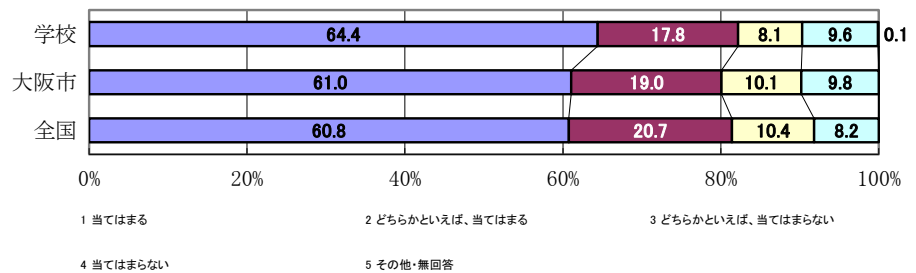
4

自分には、よいところがあると思う



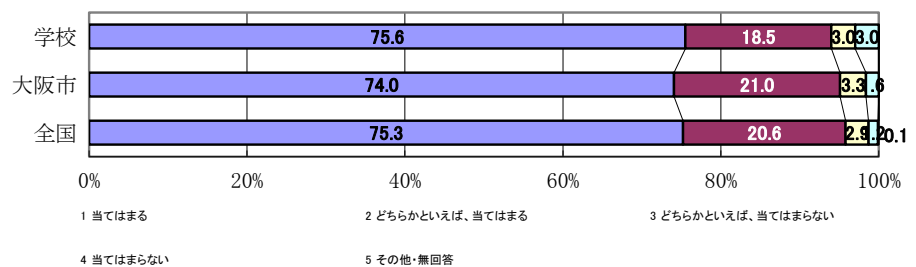
7

将来の夢や目標を持っている



11

人の役に立つ人間になりたいと思う



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

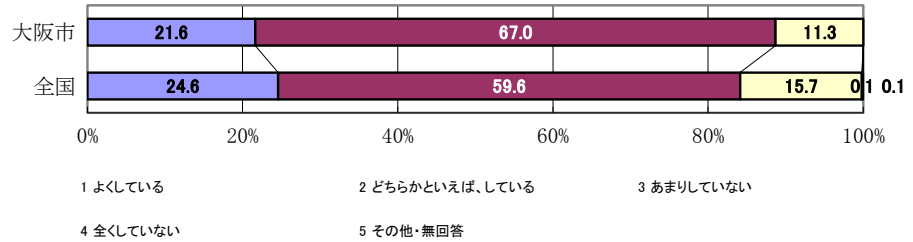
質問番号

質問事項

24

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している（オンラインでの参加を含む）

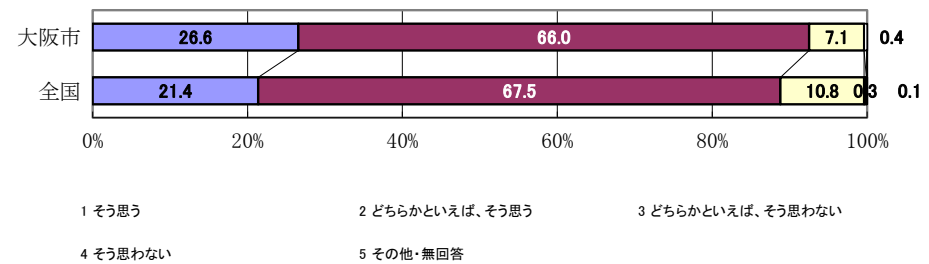
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる

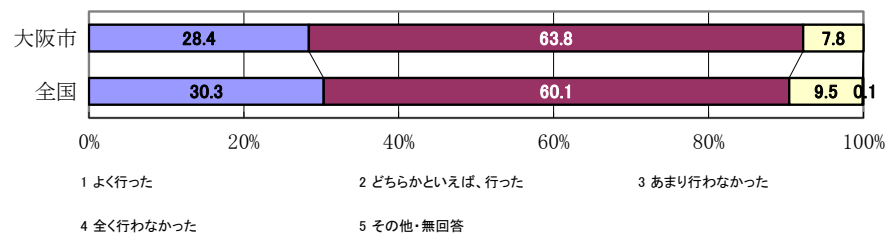
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた

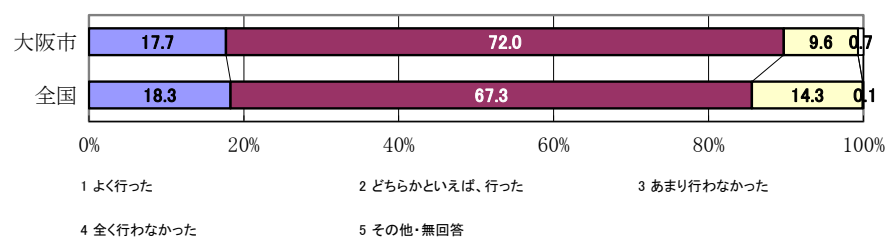
学校 「よく行った」を選択



35

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



72

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

学校 「よく参加している」を選択

